

「無駄遣いされた香油」 井上隆晶牧師

ヤコブの手紙1章16～24節、マタイによる福音書26章6～16節

①【香油を注いだマリア】

イエス様がベタニアで重い皮膚病の人シモンのお家におられたとき、一人の女の人が極めて高価な香油の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられたイエス様の頭に香油を注ぎかけました。ヨハネの福音書によると、この重い皮膚病の人シモンとはラザロのことであり、香油を注いだ女の人は彼の姉妹であるマリアだと書かれています。マルコ福音書によるとマリアは石膏の壺を壊したようです。（マルコ14：3）それを見て弟子たちは憤慨し「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。高く売って、貧しい人々に施すことが出来たのに。」（8～9節）と言って、彼女を厳しくとがめました。マルコ福音書では300デナリオン以上に売れるというのですから、300万円以上の香油であったことがわかります。

これはとても失礼な言葉です。マリアが自分の香油を何に使おうと彼女の自由なのに、弟子たちは他人の持ち物にまで指図しています。またイエス様に対しても失礼です。「イエス様に高価な香油を使うなんて無駄だ」といっているのですから。ここに弟子たちの偽善が現れています。弟子たちはいつも「計算」で生きています。人や神を自分の役に立つかどうかで見ており、自分の夢を実現させる為に人もイエス様も利用しているのです。だから貧しい人に施すというのも、彼らの人気を得るためであって本当に貧しい人のことを考えてはいないのです。

これに対しイエス様は「なぜ、この人を困らせるのか。私に良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、私はいつも一緒にいるわけではない。この人は私の体に香油を注いで、私を葬る準備をしてくれた。」（10～12節）と言われました。マリアは、なぜこのような行動に出たのでしょうか。一つは兄弟ラザロを救って下さったことの感謝であり、もう一つはイエス様がまもなく死なれることを知っていたからだだと思います。イエス様の言われた通り、これは「イエス様の葬りの準備」となりました。イエス様を墓に収めた時、香油を塗る時間がなかったからです。安息日が終わって香油を持つ女性たちが墓に行った時、すでにイエス様は復活し、誰も香油をイエス様に塗れませんでした。このマリアだけがイエス様に香油を塗ったのです。

それと同時に頭に油を注ぐのは「メシアの任職式」の行為です。イエス様は茨の冠をかぶって十字架の上に即位されました。地上の王たちは、神の立てた王を認めず逆らいました。マリアの油注ぎは、イエス様を王として受け入れたことの告白です。彼女以外、誰もこの方に油を注ぎませんでした。

②【ユダの罪＝貪欲（偶像崇拜）】

この出来事の後、ユダはイエス様を裏切り、祭司長たちから銀貨30枚（約90万

円)を受け取りました。これは奴隷の値段です。ユダはなぜ裏切ったのでしょうか。教父たちは口を揃えて「貪欲」のせいであるといっています。昔の祈祷文にこのように書かれています。

●「ユダは貪りの病に暗くなって、義なる審判者であるあなたを、不法なる審判者に売り渡しました。宝に溺れる者よ、このために首を吊った者を見よ。満足することを知らぬ魂よ、先生に対してこのようなことをすることを恐れない者を避けよ。」

貪欲は偶像崇拜と同じです。それは満足できない心であり、すべての恵みは無駄にします。ユダは聖餐をいただいた手を銀貨に伸ばし、洗ってもらった足で祭司長たちの所に走って行きました。せっかくイエス様の近くにおいて教えを聞き、たくさん恵みをもらいながら、彼はそれに満足しませんでした。なぜなら彼はイスラエルの再建という偶像にしがみつき、それを追いかけていたからです。彼は「人の子は三日目に復活する」と、キリストが言われた言葉を本気で聞いていませんでした。もし、しっかり聞いて覚えていたなら三日目の復活を見ることが出来たでしょう。しかし彼はみ言葉を忘れ、絶望し、自らの命を絶ったのです。ユダはこの世と来世の二つの命を失ったのです。

③【神の愛の無駄遣い】

この後、イエス様は「世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」(13節)と言われ、マリアを褒められました。マリアがしたことは、キリストが私たちにしてくれた福音のひな型だったからです。すなわちマリアが石膏の壺を壊して、その中の香油を全部注いだように、イエス様は自分の体を十字架の上で壊して、自分の持っている愛と命と赦しを一滴残らず、全ての人に注がれたからです。ヨハネ福音書では「家は香油の香りでいっぱいになった。」(ヨハネ 12:3)とありますが、この世はキリストの愛と命と赦しで満ち満ちておられるのです。ここにも、目の前にも愛があるのです。ユダは「なぜ、こんなに無駄遣いをするのか」といいましたが、本当に愛の無駄遣いをされたのはキリストの方です。ユダも100%の愛で愛されたのです。足を洗われ、聖餐をいただいたのに、それでもユダは気がつかず、満足できませんでした。大事なことは、この大きな神の愛に気がつくということではないのでしょうか。

ここを読んで感じたことは、二種類のキリスト教徒がいるということです。ここには自分のことだけを考えているユダと、キリストのことを考えているマリアがいます。自分の願いを求めているユダと、神の願いを求めているマリアがいます。言い換えればキリストのことを何も知らないユダと、キリストのことを知っているマリアがいます。神様が喜ばれるのはどちらですか？もちろん後者です。イエス様は「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ 17:3)と言われました。

信仰を誤解している人がいます。信仰を、この世で自分に必要なものを追い求めることだと思っている人がいます。しかし実は信仰とは神の思いを知り、神の思いに応えようとする思考のことなのです。

- 先週、4世紀のクレタのアンデレの大カノンという祈祷書を読みました。
- ・「救世主よ、わたしは自分の肉体という衣を汚し、あなたの像と似姿によって創られたものを曇らせました。」
- ・「罪はわたしから、神が先に織ってくださった神の似姿という衣を剥ぎ、死という皮の衣を縫いました。」
- ・「わたしは様々な欲望の苦しみと物体の崩壊に従いました。ゆえに今敵はわたしを責めます。」
- ・「魂よ、お前は父ノアの裸を笑ったハムに倣って、顔を避け、隣人の裸(弱さ)を覆うことをしませんでした。」

これらの祈りを聞きながら気がついたことがあるのです。私たちは日々の忙しさ、生活の思い煩いに巻き込まれて、完全に見えなくなっているという事です。この世の支配者は特にそうです。彼らはこの世の富と権力を追いかけていて、それ以外を見ようとはしません。なぜ、ダビデが罪を犯した時「ウリヤとバテシュバに向かって罪を犯しました。」と祈らず、「私はあなたに、あなたのみ罪を犯し、御目に悪事と見られることをしました。」(詩編 51:6)と祈ったのかお分かりでしょうか。この世の人は、罪というのは人に向かって犯すものだと思っています。しかし本当は神に向かって犯すものなのです。その結果として隣人に対しての関係が破壊されるのです。すべての人は神に向かって罪を犯したのです。だから私たちは崩壊と病と死に支配されるようになったのです。これは異常な状態です。それなのに、死は当たり前であるかのように生きており、異常な状態のまま、ユダのようにこの世を追い求めています。聖書の物語も、単なる神話か、道徳的な良い話として聞いています。私たちの罪とは、神が創造された良いものを破壊したということです。自分を破壊し、他者を破壊し、この世を破壊していることです。これは異常なのです。だからこそ罪を認めて神に帰り、失った美しいものを取り戻す治療を始めなければならないのです。マリアがキリストの言葉に耳を傾け続けているうちに、だんだんとイエス様の思い、神様の思いが分かってきたのだと思います。それゆえ彼女は清い香油を奉げました。それは彼女の清い生涯を奉げたことを象徴しています。私たちも清い心と清い行いをキリストに捧げたいと思います。